

「愚谿筆白衣観音図」

米国・ボストン美術館に出陳

ボストン美術館は、アメリカのもっとも古い美術館の一つですが、コレクションの質量ともに世界屈指の大美術館であります。とくに東洋美術の蒐集は、フェノロサ、岡倉天心、富田幸次郎氏ら歴代東洋部長の活躍で、世界一といっても差支えない程充実しています。

このボストン美術館が、昨年創立 100年を迎えるに当たって企画した展覧が「新収品展—創立 100年を記念して購入あるいは寄贈されたもの—」と、東洋精神を主題とした「禅林美術展」でした。

「新収品展」には、文化遺産の海外流出事件として、イタリア政府の告発騒ぎにまで発展したレオナルド・ダ・ヴィンチの少女像が出陳されて話題をまきました。一方「禅林美術展」は、世界の美術館の指導的立場にあるボストン美術館が、その権威と実力を示すものとして内外から注目されました。同時期に、ハーバード大学附属フォッグ美術館で開かれた「パワーズ氏蒐集日本古美術展」とともに、昨秋のボストンは日本色にぬりつぶされた恰好で、禅林美術展のカタログは会期中ばにして売切れたほどの盛況でした。

この「禅林美術展」に当館から愚谿筆の白衣観音図が、左右の漁樵図双幅（個人蔵）とともに出陳され、三幅一対の原型どおりに会場中央の独立ケースに展示されました。

愚谿の白衣観音図は、数年前巷間より発見され、昭和42年当館の所蔵となり、漁樵図の中幅であることが判明、今日では14世紀における日本初期水墨画の重要な作品として評価されています。アメリカでもすでにミシガン大学のエドワーズ教授による論文もあり、「禅林美術展」という世界のヒノキ舞台で脚光をあびた次第です。



季刊 美のたより No.16

昭和46年 3月1日

発行 大和文華館